月刊CDCガイドラインニュース

CDCガイドラインの最新情報をどこよりも早くお届けします！

編集長／矢野邦夫

3月号

第一七一回

男子へのヒトパピローマウイルスワクチン

現在、日本では2価および4価のヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンが利用できる。サーバリックス®とガーダシル®である。いずれも6ヵ月で3回接種し、対象は思春期前の女子である。「失神」や「慢性疼痛」を心配して接種をためらっている親もいるが、その有益性を考えるとぜひとも接種していただきたい。現在、CDCは女子のみならず、男子への接種も推奨している。ここでは「HPVワクチンは男子にも推奨される」[http://www.cdc.gov/Features/hpvvaccineboys/] から重要ポイントを抜粋して紹介する。

[男子とHPV] 多くの人々は「HPVワクチンは女子だけを守ることができる」と思っている。しかし、このワクチンは男子をHPVが関連した特定のがんから守ることができる。HPVは女子のみに感染するのではなく、男性および女性の両方に感染する。そして、毎年、**米国では9,000人以上の男性がHPV感染によって引き起こされるがんに罹患している。**HPVは男性において肛門、口腔・咽頭、ペニスにがんを引き起こすことができる。そして、肛門がんおよび口腔・咽頭がんの症例数は増加している。もし、現在の増加傾向が続けば、HPVに由来する口腔・咽頭のがんの年間の発生数は2020年までに子宮頸がんの年間の発生数を超えると予測されている。

[HPVワクチンの男子への接種の推奨年齢] **HPV感染によって引き起こされるがんの多くがHPVワクチンによって予防できるので、11～12歳の男子に接種が推奨される。男子へのHPVワクチン接種はHPV感染の拡大を減らすので、女子にも有益である。**

HPVワクチンが11～12歳で推奨される理由は2つある。それは「ウイルスに曝露する前にHPVワクチンを接種する必要がある。そうすれば、HPVによって引き起こされるがんやそのほかの疾患を予防することに有効である」「この年齢での接種は高い免疫反応を作り出すことができる」というものである。男子についても女子と同様に、6ヵ月かけて、3回接種する。

[HPVワクチンの安全性] HPVワクチンは大変注意深く研究され、安全であることが証明されている。2006年以降、米国では約8,000万本のHPVワクチンが出回っているが、HPVワクチンに関連した安全性についての重大な心配はない。一般的な軽度の副作用が報告されているが、それは接種した腕の疼痛、発熱、眩暈、吐き気などである。

注射後（HPVワクチンを含む）に失神する思春期前および思春期の子どもがいるので、座って接種するか、横になって接種するとよい。そして、接種後は約15分間はそこで様子をみる。そうすれば、失神を防ぐことができるし、失神したときに怪我をすることもない。

[失神について]「失神」[http://www.cdc.gov/vaccinesafety/concerns/fainting.html] からポイントを抜粋する。**男性の3%、女性の3.5%が生涯で少なくとも1回は失神する**と報告されているが、ワクチン後にどの頻度で失神が発生するかは知られていない。ワクチン有害事象報告システムによると、ワクチン接種後の失神は青少年ではまれなことではない。1件の研究では**失神の62%が11～18歳で発生している**ことが示された。失神はさまざまなタイプの医学的処置によって引き起こされるが、科学者は「失神は接種過程によるものであり、ワクチン自体によるものではない」と考えている。

プロフィール

やの・くにお
浜松医療センター
副院長 兼
感染症内科長
「ねころんで読めるCDCガイドライン（メディカ出版）」シリーズ等、CDC関連の編・訳書多数。

●今月の矢野編集長
NHK「ためしてガッテン」に出演した。いろいろな人からテレビ見たよと言われた。自分がテレビに出ているのを見ると照れくさい。

@メディカ出版